



Title	三年間の“ゴキブリ”駆除活動
Author(s)	川口, 学
Citation	makoto. 1979, 26, p. 8-9
Version Type	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/86129">https://doi.org/10.18910/86129</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



ます。

昨年は同じ方法で、長瀬南自治連合会五千五百戸を対象に実施しました。こゝは、新興住宅地で、圧倒的な人が、合併後の居住者です。公民館で十二回講習会を開き、九百五十人の参加でした。そのうち、七百三十戸を塗布しております。

◎ これまでの防疫作業員による残留塗布法は、施策として、危険度が少なく、使用薬剤も効率的である。

◎ 反応が、じかに表われる作業で、作業員も確信のもてるものである。

◎ 啓蒙活動としては、各家庭へのマンツーマンで、最も親切な形態である。

◎ 講習会、希望家庭の実施

日程の作成、連絡等、事前の準備が繁雑で、時間がかかりすぎる。

◎ 西地区八万九千世帯への施策としては、遅々としたものとならざるをえない。

したがって、住民組織の自主的運動が、全く期待できない地域への施策としては、大変効果を発揮すると言えます。

◎ そこで、昨年は、以上のまとめの上に立って、小規模講習会形式による、薬剤の希望配布を実施しました。これのめざすところは、住民組織に駆除運動の取り組み要請をし、その気運のある組織の求めに応じ、講習会を開き、薬剤を配布し援助をしていくというものです。そのた

めには、誰でも人前で説明ができるようになる必要がある。現状は、「百人の人を相手では、あがつてしまつて話せないが、小人数なら。」という、作業員の実情にあわせての試みでした。対象は、同じく新興住宅地の長瀬西自治連合会（六自治会）二千三百世帯です。回覧や、役員の手で、自治会組織みずから希望者を組織してもらい、一会場十〜二十人規模で、会場も各家庭を提供してもらい、作業員四人一組で分担し、指導に行きました。延二十日間で四十四回の講習会を開き、五百四十戸に薬剤一〇〇cc宛配布しました。

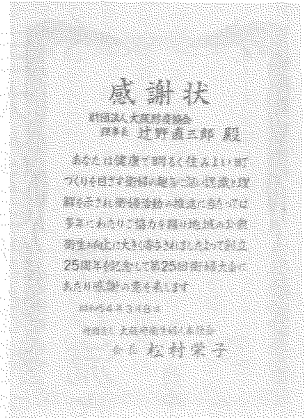
自治会に駆除運動への気運があつたことと、地域の実情にあわせ、夜間の会場を二十会場受入

れたことにより、参加者はこれまでより高い率になつております。しかし、スライド等の機材もなくなかなか思うようにはいきません。参加者は、圧倒的に家庭の主婦です。そこへ、いかつい男どもが上がり込んで、パンフレットを片手に、口頭だけで説明するのです。気楽な、雰囲気にしたという希望も、身構えた主婦の前では、とたんに

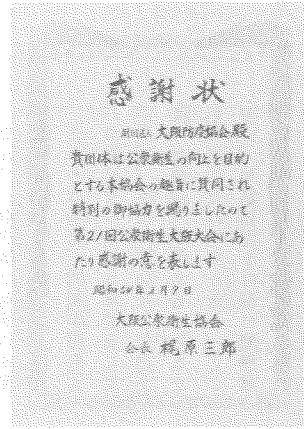
「お父ちゃんに、手伝わして、日曜日にやってみますわ。」、又、ある自治会長さんは、「毎年、夏の大掃除を一齐にやっているので、今年は、ゴキブリ

もいっしょに大掃除しますわ。」と、大層好意的でした。又、作業員も、市民の反応に對して、不安から自信への変化となり、意欲的に取り組む姿勢になつてきたのが一つの収穫でありました。

今後の、進め方はまだ定式化されておられません。地域住民の実情に応じ、当面二つの方法を発展させていく方向で、啓蒙活動を続けていく考えです。まだまだ限られた予算、限られた器具機械の中での方法ですが、「本当にむつかしいなあ。」というのが実感であります。



第二十五回大阪府衛生婦人奉仕大会において、当協会辻野理事長に、社団法人大阪府衛生婦人奉仕会から上掲の感謝状が贈られました。



第二十一回公衆衛生大阪大会において、当協会に、大阪公衆衛生協会から上掲の感謝状が贈られました。

